

風土記の丘の花だより²¹⁶

今、そしてこれから見られる植物 (2023年12月16日)

季節外れの暖かい日があるかと思えば、また本格的な寒さに逆戻り。本当にめまぐるしく変化する気温です。服装や体調管理に気を使いますね。今年も残すところあと2週間です。

大きなケヤキがすべての葉を落とし、きれいな樹形を見せてくれています。ケヤキは和歌山市の「けやき通り」に植えられている木と言えればわかりやすいですが、公園や学校などでもよく見かけ



る木です。ところで、けやき通りのイルミネーション、ご覧になりましたか? 「どこの町に来たのかな」と思うくらいきれいですが、木や、そこをねぐらにしていた鳥たちにとっては、どうなのでしょうね。それはそれとして、落葉樹は冬になるとその独特な樹形が見えてきます。ケヤキはよく「ほうき」に例えられ、「ほうき型樹形」なんて言われることもあります。幹がある高さまでは直立し、そこから急に細かく枝分かれして、きれいでわかりやすい樹形です。



トベラの実が割れて中から赤い種子がのぞいています。触ってみると、粘るのがわかります。葉にはつやがあり、少し内側に巻いています。上のケヤキとは対照的で、冬でも葉が落ちません。特に海岸などに多く、和歌山ではごく普通に見られます。でも、風土記の丘では少ないですね。株に雌雄があり、この木は実がなっているので雌株です。トベラはトベラ科です。覚えやすいですね。植物の勉強をかじりはじめた頃、よくシャリンバイと間違えたのを思い出します。葉はよく似ていますが、シャリンバイの実は真っ黒けで、こんなに割れることはありません。



こんな草は、一目でシダと分かりますね。お正月には欠かせないウラジロです。売っているものは小さいですが、自生しているものは人の背丈ほどにも伸びます。それで、野外で、飾りにできそうな大きさのものを探するのは難しいです。ウラジロは同じくシダ植物のコシダとともに、林床に群生し草むらを作ります。風土記の丘ではどちらもたくさん生えています。ところで、どうしてお正月の飾りにウラジロなのでしょうね。



殺風景な雑木林で、ムラサキシキブの実がきれいです。赤い実はよく見かけますが、こんな色の実はこれと、よく似たヤブムラサキぐらいでしょうね。庭に植えられているムラサキシキブは実がもっと丸く固まっていませんか? それは多分コムラサキという別の種類の木でしょう。それにしてもこの木の名前、何と素敵なんでしょうね。紫式部と関係があるのかなあ? (しらんけど) 松下